東京　明治十六年十月十二日　金曜日　第四百九十號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○大藏省告示第百一號

明治八年發行秩祿公債証書發行年限今十六年滿期ニ付來ル十二月中左記ノ種類記番號證書ノ元金悉皆償還ニ付テハ左ノ條々可相心得尤府縣ニ於テハ所轄證書ノ種類記番號金高枚數トモ本年十一月一日ヘノ總高ニ據リ精密調査シタル製表ヲ以テ元金請求書仝月十五日以内ニ其地發遣スヘシ將又仝月一日以後ハ該證書讓渡賣渡ノ檢印停止タルヘシ

一該元金ハ證書ト引換ニ拂渡ヲ爲シ利息ノ儀ハ明治十六年仝年分拂渡スニ付來ル十一月利拂ノ定期ニ於テ利札ト引換ニ拂渡スヘシ

但元金拂渡ノ節ニ至リ利金ヲ同時ニ受取度旨情願スル債主アルニ於テハ同時ニ授受苦シカラス尤其渡方ハ本文ノ如ク區別シ取計ヘシ

一該公債證書及ヒ既ニ藏斷シタル利札盜難紛失遺失所在不分明流失燒失等ノ分ハ其旨管轄廳ヘ可申立管轄廳ニ於テハ其事實ヲ推糺シ處分方速ニ當省ヘ伺出ヘシ

一左記ノ公債證書記番號ノ外明治八年發行ノ公債證書萬一所持スルモノアルモ前ニ事故アリ無効ノ證書ニ付若シ所持スルヲ見聞シタルトキハ府縣ニ於テハ直ニ警察官ヘ通告(他管轄ノ證書ナレハ其管廳ヘ通知スヘシ)該證書引上ノ所分ニ及ヒ當省ヘ還納スヘキモノトス

右告示候事

明治十六年十月十一日　大藏卿松方正義

(滿期償還記番號闕略ス)

叙任

○明治十六年八月三十一日
任歩兵中尉　歩兵少尉正八位　永岡保義

○明治十六年九月六日
任海軍中尉　川村正助

○明治十六年九月八日
補權少教正　大講義　大原美能理

○明治十六年九月廿日
任歩兵中尉　歩兵少尉正八位　川上信成

○明治十六年九月廿一日
任工兵少尉　秋月榮太郎

同　神前正次郎

同　大野嘉遜

同　山田昌荐

任會計三等軍吏　勳七等　蛭田正路

同　熊田卿

同　梅澤武次郎

同　久保政廣

同　石原昌雄

○明治十六年九月廿七日
任歩兵少佐　歩兵大尉正七位勳五等　今村爲邦

時事新報

世務ノ多端益喜ブベシ

古來亞細亞ニ於テハ世ノ安寧靜謐ナノミ是レ祈リ天下太平無事息災ヲ目的トシ只管世務ノ少キヲ是レ好ミ務メテ費佚ニ耽リ遊情ニ流レ一モ世務紛雜ノ間ニ立テ鑿根錯節ノ衝ニ當ルヲ厭ハズ又大ニ之ヲ厭嫌スルノ風アリテ存セリ惟レ則チ亞細亞洲人ガ有爲活潑ノ氣力乏シクシテ國運開明ニ進マザルノ一大病根ニアラズヤ夫レ文明ハ多事、多事ハ文明ニシテ其事務ノ多端ナルニ從ヒ人々智力ヲ用ヒ勇氣ヲ發シ以テ生々進々ノ運ニ赴ク可キ明ノ城ニ進ムヲ

得ベシ安ン遊情費佚ニシテ眞ノ天下太平ヲ致シ無事息災ニ此世ヲ渡ルヲ得可ケンヤ我皇國ハ戰亂ヲ好ミ流血河ヲ成シ伏屍山ヲ作スヲ好ムモノニ非ザレヒ常ニ世務ノ益多端ナランヲ望ミ多々益其喜ニ堪エザルナリ然ルニ如何ナル卑怯未練、懶惰奇佚ノ者ナルニヤ今ノ世ニ方リテ仍ホ務メテ世務ノ少ナカランヲ希ヒ只管無事閑靜ヲノミ目的トスルモノアリト云ヘリ此等ハ畢竟其者ノ目的ヲ達スルヲ能ハザルノミナラズ一世ノ事ヲ擧ゲテ停滯不流ニ屬セシメ自他俱ニ沈淪溺惑シテ活人全ク生意ヲ失却シ憐ム可ク悲ム可キ形體トナルニ至ランノミ

文明國ノ多事ナルハ今更喋々ヲ要セザレヒ政治ノ事ナリ社會ノ事ナリ、甲起リ乙仆レ、一人繁榮ナレバ一人衰弊シ其間變遷窮リナキモ常ニ幾分ノ進歩ナキハアラズ其他學術、宗教、武技、文藝、商賈、工業等蜂起蟻集シテ一々計ルニ暇アラズ此等ハ皆新ヲ競ヒ奇ヲ衒ヒ一歩モ後レ一刻モ失ハンヲ恐レ各智力ヲ振テ文明ノ野ニ戰ヒ互ニ競爭磨厲シテ頻々改良ヲ加ヘ寸刻モ已ム時アルヲナシ其紛雜繁多ナルハ亂絲ノ如ク其迅速快利ナルハ電光ノ如ク一見人ヲシテ厭嫌ノ念ヲ生シ危殆ノ思ヲ懷カシムルモノ、如シト雖ヒ細カニ之ヲ觀ヒ其間條理整然秩序ヲ乱サス各其所ヲ得テ幸福ヲ享受シ天下太平無事息災ハ却テ此中ニ見ル可シ語ヲ設ケテ評スレハ無事ハ多事ノ中ニ在テ存スト云フモ可ナラン豈ニ其紛雜ヲ嫌フヲ須ヰルニ及ハンヤ且夫レ不文國ト雖ヒ苟モ其國ニ大ナル故障ナキ以上ハ社會ノ景況ハ常ニ活動進歩ノ傾向アリテ之ヲ古代ニ比スレハ世務次第ニ繁多ニ赴キ復人力ノ能ク制止シ得ベキモノニ非ス況ンヤ日本國ノ如キ素ト不文ノ國ニ非ズ加フルニ近年盛ニ外國ノ交際ヲ開キ今方サニ疾歩急進セントスルモノナレハ舊時代ノ事理ヲ以テ之ヲ檢束鎖定セントスルガ如キハ隨分以テ實際ニ行ハレ難キ事ナル可シ

今試ニ東京府下ニ於テ發兌スル所謂大新聞ナル者ヲ把テ之ヲ一閲スルニ其主義ノ改進保守如何ニ拘ハラズ紙上記載ノ事項ハ概ヲ内外諸國政治ノ興廢、社會ノ有樣、學術、技藝、商賈、工業等新奇發明改良進歩ノ事ニアラザルハナク一葉ノ新聞紙ハ殆ント宇宙ヲ網羅シ一般ノ世相ヲ寫シ出シテ漏ス處ナシト謂フ可キナリ看者コレヲ輕々讀過レバコソ甚タ喜ブベク憂フベキ暮フベク悲ムベキ事モナキガ如クナレヒ若シ能ク心ヲ留メテ細閲審思シ一事項毎ニ此レハ如何ナル關係ヲ生スルカ、彼レハ如何ナル結果トナル可キカ、此レハ退歩墓顛スルニハアラザルカ、彼レハ急進疾歩スルニハアラザルカト内外相照シ東西相較シテ仔細ニ考ヘ其事務ノ多端ナルニ從ヒ人智ノ進歩スル可キモノ、如キ

發スルナクン所ニ心ニ憂愛悲哀ノ感ヲ發スルヒハ男兒トシテ身コレニ處スルノ覺悟ナカル可ラズ今世界事物ノ繁多ナル有樣ハ必ラズ遠ク之ヲ歐米ノ各地ニ求ムルニ及ハズ現在日本ノ新紙上ニモ寫シ來リテ餘アリト申スベシ古來我國數百千年間ニ起リタル歴史上ノ事跡ト雖ヒ今日ノ新紙ノ如ク夥多ノ新事項ヲ包括セルモノハアラザル可シ仮レバ今日一葉ノ新聞紙ハ古史百篇卷ニ値ルトモ謂フ可キナリ

獨リ怪ム可キハ世間ニ隨分好ンデ新聞紙ヲ讀ム者ニシテ未タ深ク憂愛ヲ此間ニ措カサルモノ往々之レアルガ如シ甚シキハ自ラ新聞紙ヲ編輯スル者ニシテ漫幅殆ント開明進歩ノ景況ニ係ル事項ヲ掲ゲナガラ仍ホ其所説ニ於テハ退守墓古ノ意ヲ露呈シテ動モスレバ人智ノ發達ヲ抑ヘ社會ノ進歩ヲ遏メントスルノ情アルモノ、如シ其狀恰モ春陽ノ時節到來シテ草木漸ク暢茂シ百花將開ノ際ニ於テ一掬ノ氷雪ヲ把リ來リテ草木ヲ枯凋セシメンヲ謀リ一扇ノ寒風ヲ煽キ起シテ百花ヲ萎縮セシメント望ムモノニ異ナラズ是レ自ラ欺キ人ヲ欺クノ計ニアラザレバ則チ社會進歩ノ大勢ヲ解セザルノ所爲ト謂ハザル可ラズ陽氣正ニ發スルノ文明ニ逢フテ人事ノ暢茂ハ之ヲ留メテ駐ム可ラス蒺藜毒草トイヘヒ等シク雨露ノ霑ス所ニ任シテ强テ之ヲ芟除スルニモ及ハズ況ンヤ愛スベキ百花ノ爛熳タルモノニ於テヲヤ惡ム可ラズ愛ス可キ者ナレバ先覺ハ後覺ヲ助ケ長シテ其開發ヲ促ス可キノミ之ヲ要スルニ我輩ハ政治ノ事ナリ社會ノ事ナリ其他學術、宗教、武技、文藝、商賈、工業、等勉メテ世務ヲ多端ナラシメ各自相競フテ之ヲ磨厲シ各其所ヲ得セシメテ事務繁多ノ極、恰モ無事ノ如ク、錯雜快利ノ中、眞ノ天下太平ヲ期スルノ外又他ニ策アルヲナシト思考スルナリ

電報

○十月九日龍動發　佛清交渉事件ハ中止の姿となりぬ

両國の談判その功を奏せざりしは疑なし

○九月二十八日香港發　本月十八日佛軍河内よりハウホンに進攻せしに同所の壘壁整然として存したれども敵兵既に棄てゝ據守せざりし、佛軍は更ゝ黒旗軍を踪跡せんとし四方を尋ねたるも敵之早やダイ河を渡て山西に退きたり去る五月黒旗軍の伏に陷りて戰沒せし總督リヴヰール氏及び佛人三十名の頭骨を同地よりて發見したり然れ共ろの屍体を得ず佛軍は翌日河内府ゝ引返したり

○九月廿九日龍動發　當に馬島にて遭厄せし傳教師ジョウ氏は龍動に歸着し衆民ゝれを待迎し氏ハ其遭厄の始末を述べたる又龍動の新聞ハ氏ゲ遭厄の要實を論述せり

○九月廿九日香港發　両江總督張樹聲は祝融嶺ヨーガンム可き事實を

ンム一氏に

ーガンの到

して責任を

雜

○神官祭

祭を行はせ

擬して建設

の神官祭の

○參内謁見

公使サンキ

て赤坂仮皇

く同公使へ

て別室に於

○小禽御覽

ひて愛でさ

鶯の變り種

紅雀とも一

さるゝ由

○朝鮮國の

本と修好の

俄ゝゐ長眠

接したれば

可を論した

ゐ其權力を

かゝ此機に

ゐ禍變と激

なり國歩の

て零ぼ外國

翻然圖と改

へ派遣し以

就きて壯丁

らしめ西洋

とする等其

るハなし特

ハ朝鮮國に

い頑固党中

死と賜ひ大

を圖り學校

して便民利

米國特派全

米粹両國の

改良する有

鮮國の事情